

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2020年1月31日

【運用実績】

過去のパフォーマンス(%)	直近の分配実績(円)		
	ファンド	TOPIX配当込	
過去1ヵ月間	0.28	-2.14	
過去3ヵ月間	2.68	1.21	
過去6ヵ月間	4.40	8.88	
過去1年間	11.73	10.17	
過去3年間	25.03	18.46	
設定来	154.69	109.46	
		設定来累計	1,300

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	66.2	34
ショート	-28.7	49
債券	0.0	0
キャッシュ等	62.5	—

※比率は対純資産総額

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	50.1
東証2部	0.0
ジャスダック	1.3
その他	14.8

※比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
不動産業	11.8
情報・通信業	11.7
機械	7.3
電気機器	5.4
小売業	4.6
その他	25.4

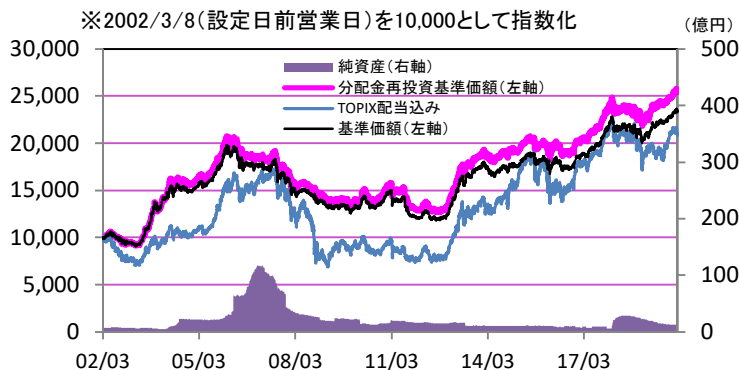
※比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
23,371 円	23,301 円	12.15 億円

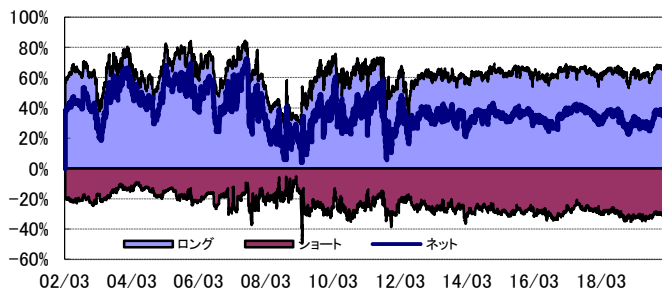
ハイ・ウォーター・マーク: 22,303 円

※基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



※基準価額は信託報酬・実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



【組入有価証券上位10銘柄(ロング)】

	銘柄	業種	比率(%)
1	ユニゾホールディングス	不動産業	4.4
2	SMC	機械	3.9
3	リックソフト	情報・通信業	3.9
4	日揮ホールディングス	建設業	3.9
5	SUMCO	金属製品	3.6
6	SBIホールディングス	証券、商品先物取引業	3.4
7	ティーケーピー	不動産業	3.2
8	サンフロンティア不動産	不動産業	3.1
9	村田製作所	電気機器	3.0
10	ペプチドリーム	医薬品	2.9

※比率は対純資産総額

※上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。
※「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド
愛称:ベスト・アルファ

マンスリーレポート
基準日 2020年1月31日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2020年1月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比2.14%の下落となりました。

当月の日本株式市場は、米国とイランとの対立から地政学的リスクが高まり、ボラティリティの高い展開で始まりました。その後は、中国経済指標の好転や、堅調な米国株式市場を受け上昇基調となりました。月末にかけては、中国発の「新型コロナウイルス感染症の拡大」からリスクオフに転じ、インバウンド関連銘柄や製造業関連銘柄など多くの業種が下落しました。

【運用状況】

1月の当ファンドは、リックソフト、JMDCなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

リックソフトは、月半ばに発表した2020年2月期第3四半期決算で、売上高が前年同四半期比34.8%増と高い成長が見られたことに加え利益率の改善も確認できたことで、2020年2月期第2四半期決算以降続いていた業績成長に対する懸念が払拭され、株価が上昇しました。JMDCは医療データとICT（情報通信技術）を使ったヘルスビッグデータ事業、遠隔医療事業、調剤薬局支援事業を展開する企業で、昨年12月に東証マザーズ市場に上場しました。同社の成長の軸であるヘルスビッグデータ事業の長期的な成長性が評価され、前月に続き株価が大きく上昇しました。

一方、ティーケーピー、日揮ホールディングスなどが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

ティーケーピーは、新型コロナウイルス感染症の流行によって会議や集会が自粛・キャンセルされることを懸念して株価が下落しましたが、需要の減少が顕在化したとしても一時的な影響に留まると判断し投資を継続しています。日揮ホールディングスは、新型コロナウイルス感染症の影響で世界的に経済活動が停滞し原油の需要が減少するとの見方から原油価格が下落基調となったことで、同社の受注環境にもネガティブな影響が出ることを懸念して、株価が下落しました。

ポートフォリオは、成長性が高いと判断する企業に積極的にロング投資を行ったことでネット・ポジションは前月に比べて引き上げました。今後企業業績の回復が顕在化すると考え、当社が考える中心値30%よりも高いネット・ポジションの水準を維持しています。

【運用方針】

日本株式市場は、年末年始の楽観的な展望を打ち砕くような予想外のリスクが顕在化したことで混乱が続いています。地域紛争や伝染病の流行など突発的なマイナス材料が次々と顕在化していますが、それぞれの影響を正確に捉え過剰に反応することなく企業の本源的価値に注目して丁寧に投資する方針です。

当月は2か月連続で株価が下落し、マイナス影響が出ている「ギフト」に対する私どもの見方をご紹介します。

同社は「横浜家系ラーメン」を中心に全国でラーメン店を運営する企業です。同社の評価ポイントは、①ラーメン店に重要な「個店感」と「チェーン化」を高度に融合させている点、②大きな目標と具体的で短期的な計画を併せ持つ経営者のビジョン、の二点です。①に関しては、ブランド戦略の柔軟性が挙げられます。こだわりのラーメン店には「個店感」が重要ですが、その味を安定させるためには工場生産できる規模が重要です。この相反する二つを両立させるために、直営店での二つのタイプの店名とプロデュース店の展開を行っています。まず直営店ではこだわり感が重要な繁華街、駅前店では地域名を冠した様々な店名「〇〇商店」（例:代々木商店）を掲げる一方で、ファミリー層が多く信頼性や安心感が重要なロードサイド店では共通の店名「町田商店」を掲げてそれぞれの店舗形態に適切なブランド戦略を展開していること。さらにフランチャイズ店ではなく、スープや麺などの食材と店舗経営ノウハウだけを提供することで、セントラルキッチンのコスト回収を可能にしながら低コストでのブランド管理を実現できているプロデュース店を全国で300店も展開するなど、よく考え込まれたビジネスモデルが構築できていると私どもは評価しています。②に関しては、中長期目標として「日本一、世界一のラーメン企業を目指す」として国内1,000店、海外1,000店という大きな目標を掲げていますが、創業初期からセントラルキッチン化に取り組んできたこと、既存店売上を落とさないように綿密な対策、仕組みを構築していること、また海外展開も現地での店舗モデルの確立を重要視し店舗数をやみくもに増やさないなど、「地に足付いた着実な経営」が行われている点を評価しています。昨年後半以降、同社株価は軟調に推移していますが、時間とともに同社の実力の伴った成長性の高さが業績数値になって顕在化してくると私どもは考え、積極的に投資を続ける方針です。

ショート投資では完成車メーカーA、時間貸し不動産物件マッチングサイト運営企業Bに対してそれぞれ新たにショート投資を開始しました。完成車メーカーAは度重なる不正の発覚から過去の企業体質に変化が見られないこと、アライアンス先の企業も経営混乱に陥っていることから中長期での企業体力の減耗は避けられないと考えています。時間貸し不動産物件マッチングサイト運営企業Bは、売上拡大のために先行的に広告費をかけざるを得ない構造であることから本源的な企業価値は高くないと考えています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社に購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてはコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド

愛称: ベスト・アルファ

ファンドの目的

当ファンドは、主としてスパークス・日本株・ロング・ショート・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)を通じて、日本の株式に投資し、絶対値での中・長期的な安定的投資元本の成長を目指して運用を行います。

ファンドの特色

1. 株式市場変動の影響を軽減しつつ、安定的なプラスのリターンを目指すロング・ショート戦略の日本株ファンドです。

当ファンドはロング・ショート型のファンドです。ロング・ショート型とは将来の成長が見込まれる株式を買建て(ロング)する一方で、過大評価されている株式を主に信用取引により売建て(ショート)するという2つのポジションを組み合わせる手法です。

※ベンチマークは特に定めませんこととします。

2. 進展する「勝ち組」・「負け組」の二極化現象を投資機会と捉えます。

「勝ち組企業」の株を買建て、「負け組企業」の株を売建てます。

徹底したボトムアップ・リサーチにより、こうした二極化現象を的確に捉えることを目指します。

3. 中長期的な日本の株価上昇の機会を捉えるため、買持ちの多い戦略とします。

スパークスでは、株式は中長期的に見て、通常プラスのリターンをもたらすと考えており、また、現状の日本の政治、経済、社会レベルでの構造変化は株式市場の上昇を後押しすると考えています。



原則、買持ちの多い戦略をとります。

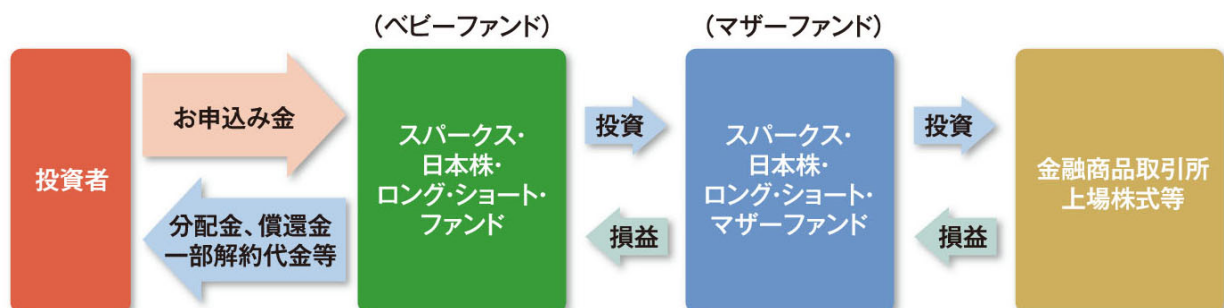
「買持ち(ロングのポジション)を、売持ち(ショートのポジション)よりも多めに保有する戦略」

4. 徹底的なボトムアップ・リサーチに基づく銘柄評価を行います。

ファンドの仕組み

ファミリーファンド方式*により、金融商品取引所上場株式への実質的投資を行います。

※ ファミリーファンド方式とは、投資者の皆さまからお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。



■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド

愛称: ベスト・アルファ

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資等を通じて、株式などの値動きのある有価証券に投資し、有価証券先物取引等を活用することがありますので、ファンドの基準価額は変動します。**従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。**

株価変動リスク

一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

ロング・ショート戦略固有のリスク

当ファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式等が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方で損失が生じた場合、通常のファンドにおける損失よりも大きくなる可能性があります。

信用リスク

組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。

中小型株式等への投資リスク

当ファンドは、中小型株式等へも投資します。こうした株式は、比較的新興であり、発行済株式時価総額が小さく、売上の少ない流動性の低い株式が少なくありません。その結果、こうした株式への投資はボラティリティ(価格変動率)が比較的高く、また流動性の高い株式に比べ、市況によっては大幅な安値で売却を余儀なくされる可能性があることから、より大きなリスクを伴います。

その他の留意事項

●システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

※基準価額の変動要因(投資リスク)は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド

愛称: ベスト・アルファ

お申込メモ(お申込の際には投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

ファンド名	スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド (愛称: ベスト・アルファ)
商品分類	追加型投信/国内/株式/特殊型(ロング・ショート型)
信託期間	2002年3月11日から無期限
決算日	毎年3月10日 (休日の場合は翌営業日)
収益分配	原則として毎決算時にファンドの基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないこともあります。
お申込時間	各販売会社で毎営業日お申込いただけます。お申込時間は、原則として午後3時までとします。 当該時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。
お申込単位	販売会社が定める単位
お申込価額	お申込受付日の基準価額
解約のご請求	販売会社の毎営業日に販売会社が定める単位で解約を請求することができます。お申込時間は、原則として午後3時までとします。当該時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。 ※委託会社は金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、解約請求の受付を中止することができます。
解約価額	解約請求受付日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
解約代金の受渡日	解約請求受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。

お客様にご負担いただく手数料等について
※下記手数料等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

【お申込時】

■お申込手数料

お申込受付日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)**を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額

【ご解約時】

■信託財産留保額

解約請求受付日の基準価額に対して**0.3%**の率を乗じて得た額

■解約手数料

なし

【保有期間中】

(信託財産から間接的にご負担いただきます)

■信託報酬

純資産総額に対して**年率1.98%(税抜1.80%)**

■実績報酬

前営業日の基準価額がハイ・ウォーター・マークを上回った場合、当該基準価額と当該ハイ・ウォーター・マークの差額の**22%(税抜20%)**を費用計上。実績報酬は半年毎に信託財産から支払われ、ハイ・ウォーター・マークも半年毎に見直されます。

■その他の費用等

(1)監査報酬、投資信託説明書(目論見書)や運用報告書等の作成費用などの諸費用(純資産総額に対して上限年率0.10%(税込))

(2)有価証券売買時の売買委託手数料等は、ファンドの運用による取引量に応じて異なりますので、事前に料率や上限額等を表示することができません。

【課税上の取扱い】

課税上の取扱いについては投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【お問い合わせ先】 スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ <https://www.sparx.co.jp/> 電話番号:03-6711-9200(受付時間:営業日 9:00 ~ 17:00)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・ロング・ショート・ファンド

愛称: ベスト・アルファ

ファンドの関係法人について

● **委託会社** スパークス・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 346 号
 (加入協会) 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 日本証券業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
 信託財産の運用指図、受益権の発行等を行います。

● **受託会社** 三井住友信託銀行株式会社

委託会社の指図に基づく信託財産の管理等を行います。なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託を行います。

● **販売会社** 下記一覧参照

ファンドの受益権の募集・販売の取扱い、一部解約請求の受付、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いの取扱等を行います。

販売会社	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第 370 号	○			
SMBC日興証券株式会社 ※1	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 2251 号	○	○	○	○
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 52 号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 44 号	○	○		○
au カブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 61 号	○	○		
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 2938 号	○			
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第 43 号	○			
株式会社荘内銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第 6 号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第 140 号	○	○		○
野村證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 142 号	○	○	○	○
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 1977 号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 165 号	○	○	○	
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 94 号	○	○	○	○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第181号	○		○	
めぶき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 1771 号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 195 号	○	○	○	○
スパークス・アセット・マネジメント株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 346 号	○		○	○

※1 SMBC日興証券株式会社は、2018年10月1日以降、買付申込みの受付を停止しており、換金のみのお受け付けとなります。(分配金再投資による買付は行われません。)

【お問い合わせ先】 スパークス・アセット・マネジメント株式会社

ホームページ <https://www.sparx.co.jp/> 電話番号:03-6711-9200(受付時間:営業日 9:00 ~ 17:00)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。